

2016年1月

蠟梅の 凜と咲きおり 過疎の村
息災を 御節に込めて 年迎ふ
去年今年 同じ願ひを 初詣
正月は 駅伝三昧 半世紀
都路を 走りし少年 箱根路へ
ゴールする 嗚咽の声や 湖渡る
かるたとり 孫にも負けて また楽し
曇り空 小雪チラチラ水ぬるむ
寒椿 ふくらみかけし 今朝の道
厳寒に 慣れない日々の 長きかな
佐鳴湖に 魁夷思わせる 冬木立
ゴミ袋 寒き朝には 重くなり
有明の 月と散歩する 枯葉道
冬枯れの 庭に木瓜の 花一輪
木瓜咲いて 春蘭負けじと 顔を出し

スーパーの チラシで暦の 流れ知る
今日もまた 五七五捻って 脳刺戟
諭吉さん ペンは今でも 強いのを
甘利山 蓮華躑躅の 咲く頃は
物忘れ トンチで返す 吾夫婦
財力は 核実験で 民困窮
記念碑に 大勢集まり 畏怖の念
穏やかな 新年の裏に 大波瀾
恙なく 八十路を迎え 芽吹き待つ
会話なく スマホやメールで 味気なし
大寒に マジック楽し 食事会
一票が 三万円の相場かなし
ディーンさん ヒロインよりも 華がある
草を食む 胃薬代わりと 犬の知恵
屋根の上 黒きタイルが エコの素

2016年2月

コトバウアー つなをとるのか 春の夢
春のうみ 遠くにかすむ 舟ひとつ
梅も散り 桜も間近か この寒さ
また行こう 誘う相手が 旅立った
洗う手に 落ちる涙が 水と散る
春近し 主無くとも 花開く
春の寒気 タンスの服が また目覚め
真紅の バラ玄関先を 一変す
寒風の コートの中で 球はねる
春が来た 希みの学校 門開く
葉を落とし 姿現わな しだれ梅
仲よしの 友また去りし 風しみる
寒の入り 春夏秋が 同居する
如月や 生命の証 紡ぎおり
早起きて 学ぶ楽しさ 春うらら

富士の日も 姿見られぬ 街となり
寒き夜に 珈琲タンゴに 癒さるる
春を待つ 犬は主の かえり待つ
葉をゆらし 春雨ぽつり 猫走る
海越えて 唐紅の 梅香る
ひな飾り 一年ぶりねと 胸の内
歩みつつ 祈る姿や 五郎丸
向う見ず ミサイル発射で 歓喜の日
ヴィヴァルディ 気だるいような 四季の夏
映画館 ラストわからず 悔しけれ
脳活は ステーキ運動 五七五
河津沿い 自撮りするの は 皆チャイナ
断捨離の 何から手はじめ とまどいて
卒寿越え 来し方想い 涙して
食品の 遺伝子組換え 不安増し

体力の 限界を知る 咳続く
風花に 小さき手かざし 空仰ぐ
灸すえる 煙の向う 母在りて
空っ風 甘味増します 天日干し
「寒いね」と 言葉かけ合ふ あたたかさ
冬ぬくし おしゃべりサロンの 笑顔増す
「福は内」 親子で豆食べ 幸とせり
公園の 樹々に雨沁み 二月逝く

球春に 黒い影さす 襟正せ
ジェイアラート 久米島に鳴る 口あんぐり
トランプの 占い如何に 安倍総理
嗚呼何と 齒舞忘れる 大臣さん
あの女は 薄鈍なのか 切れ者か
教え子に あの詩この道 生きる道
蠅叩き 処分されずに 居据われり

2016年3月

蜆塚 太古の漁場や 地学かな
ほろ苦し 思い出すのも 露の臺
たんぽぽの 綿毛ふわりと 旅の空
碇草空の 蒼きを 知らずして
四月馬鹿 三億円の 犯人は今
買い溜めし ティッシュの箱や この季節
誕生日 ワインレッドの バラに酔ふ
階下の木 ここまで伸びよ 差し出す手
宮勤め 春の別れの 辛さかな
柔らかに 花筵敷く 時期近し

枝垂梅 色縫れあひ 風に舞ふ
啓蟄や 長引く風邪に 歳を知る
幼子の 瞳きらきら 春さがし
ふる里駅 かもめの大群 飛び回る
チューリップ 土から顔出し 春を呼ぶ
寒き夜に 目覚めて 覚ゆ人の影
永き日に 松風響き 母の影
さえずりは 恋の季節の 到来か
てをふりて いにしへのごと わかなつむ

2016年5月

新緑に住み家囲まれ和む日々
物静かゲーム三昧子どもの日
五月雨やこくりこの花儂くて
新芽ふき喜びあふる道端の木
花筏若葉になって立夏かな
紫陽花の蕾膨らむ曇り空
うなだれし友の手白きカーネーション
細き指捕えて放す糸蜻蛉
招かれし茶会の席は春づくし
見はるかす山の斜面の膨れおり
花に酔い人に酔いたる春の旅
天災の怖さが身と地震国

引き時が女々しいぞえ都知事さん
風通る昼寝の顔をなでながら
白湯一杯目覚しからだ駆け巡る
すまし顔肩のスカーフくすくすと
目を閉じて音色楽しむ水琴窟
オバマ来て広島空真青かな
可憐なる美輪明宏の女形
逃げ切りし金魚帰りてしばし余暇
公金をつまみ食いするハゲねずみ
爺さんと呼んだ相手は三つ下
浜名湖は手のひらのよう夏景色
紙っぺらで動けて動かぬ現場

家康くん我が家の一員朝のお茶
整体師顔より姿勢を見よと言ひ
出しゃばらず身の丈が良いいつの世も
野っ原に吾を誇示するバラ一輪
測るたびちじむ身長まるい背せな
年老いて体力なくて旅中止
稀勢の里綱の重さやいつのこと

ついついと本音を言って後で悔い
難続き東京五輪霞んでる
娘捨て法を説く人母の日に
真直ぐに行くはずだったあのボール
終活のひとつかものねと鉢減らし
あの地でもペーパーだけか動けない
洗濯し干して何と無う欠伸するの

2016年6月

五月雨や花とりどりに競ひ合ひ
梅雨入りも九州地域鬼門かな
かすかなるレールの響き明日は雨
白シャツの生徒まぶしき衣更
ひそやかに額紫陽花の会議中
散歩道緑深まり山笑ふ
水溜り風が波紋を残し去る
田を植うる頬を撫でゆく風優し
梅雨晴れの若葉に光るダイヤかな
鱸釣り用意万端月を待つ
ビオトープ清き流れにカニ遊ぶ
高円の萩の寺にも詣で来し
子らもする短詩の園や春ともし
過ぎし日の思ひ出話今いづこ

「久しぶり」と声かけられしただけ
選挙戦参院都知事熱きかな
青い汁飲んでではみたが効果なし
遊びましょ猫の昼寝の邪魔をして
ラインして自分の日常炙り出す
五七五会えて楽しきこの一年
セーラー服話すことばを探しをり
若者の活気まばゆい老いの日々
気鬱でも犬に引かれて出る散歩
沖縄の苦しむ姿胸を打つ
ボート部の歴史を閉じる佐鳴中
長生きはボロが出る出る本性も
ざりげなくポリープ四つ取りました

2016年7月

衣更えもう一年と仕舞い込み
夏日避け帰路を歩みし遺跡庭
生サラダ我が家のキュウリ主役はる
たまの旅心躍れど雨々々
半夏生さみしき里に似合いけり
甥逝きぬ鬼灯の苞色を増し
朝六時九頭身の夏の影
梅雨明けてブッセの空は見えずとも
風鈴や打水涼し風あそぶ

窓際に父の残せし籐寝台
対岸のホタルの星座息をのむ
余花白し雪の舞ひたる新野越え
知らぬ子に挨拶されて笑み返し
離脱して後に戻れず行き場なし
決心し鰻屋に行けば定休日
歯は命毎夜の歯磨き牙光る
温暖化危険生物増殖中
楽しみはプライムニュースで世事を知る

参道の深き緑や蝉しぐれ
亡き夫のシャツつま着て眠る盆の月
名古屋場所成長楽しウラウラと
梅雨空や香りただよふ鯉焼く
峰雲や溢れて谷に落ちにけり
農夫なき畑に広がる夏の草
エアコンの涼は独りに余りけり
廃屋や鬼百合燃えてたれを待つ

若者は現状維持で自民党
川柳を詠めと言われて頭かく
オレオレも夫婦でかかる時代なり
左利き鏡のごとき鯨たたき
行くべきか友の見舞に暗い日々
政治家は人の為は言うけれど
爺と爺孫らまでもが糸を無視
残りものみんな並んで朝ごはん

2016年8月

週ごとの花火の音に落ち着かず
クーラーを止めてがまんも程々に
山の奥カップルで見ている半夏生
花火の夜鴉にとって恐怖の夜
ポケモンで人出増えゆく大暑かな
乾梅雨の雨を所望と仰ぎ見る
蝉鳴くや命の輪どのあたり
猛暑ですキーンときてもかき氷
終戦日命永らえライスボール
蝉時雨夏も僅かと鳴き散らす
百日紅ここぞとばかり咲きほこる
夕立は花も草木もよみがえる
桔梗咲き淋しさを増す涼しさよ
雑草も雨乞いしている酷暑かな
鳴く蝉の主役代わりて夏は往く
夏野菜観察楽し食べてよし
ハンミョウに導かれてや青い空

秋葉山ひぐらしの声うら寂し
片蔭や青信号を待つ人ら
約束の時間急かすや蝉時雨
一瞬の命燃やせり大花火
青山(せいざん)に白い雲秋み一つけた
役満をつもって覚める夏の夢
大臣が道化師となるアベ・マリオ
まず勞し廃品集め休息す
世界中明るい未来待ち焦がれ
寝不足のオリンピックは悲喜交々
しのび足フマキラー片手の台所
墓参り戦死の二字に胸痛む
稔よりお先に虫がまず試食
ひとり逝きまた一人逝く大銀杏
終戦日海賊退治激励日
終戦日あぶないはいはそっと除け
ひょっとしてあんとあいさつかわす日

2016年9月

鷗飛ぶ大海原に本土見ゆ
木々繁る花火音のみ佐鳴の宵
朝顔の紫見事大樹背に
空青く味覚豊富な栗きのこ
天高く気流に遊ぶ二羽の鳶
棚田縫い畦うめつくす曼珠沙華

鬼灯(ほおずき)の色薄れゆく晩夏かな
美女二人励まし走るリオの空
蟋蟀(こおろぎ)の大合唱で夜が更ける
直虎で井伊谷宮が蘇る
犬散歩人の健康介助する
老齡に祈り深まる神仏に

<p>路地ぬける秋刀魚のほひ琴の音と 虫の音に誘われ仰ぐ十三夜 松茸や期間限定寿司のネタ 訓練に被害思ふや暑に耐ふる 身の丈にゆるり生きみる残暑かな 名月の白く澄みたり雲の間に 行く人の帽子にとまるアキアカネ 振花や緑に映えて高き塔 竹(なな)節(ふ)虫(し)や読書の窓に舞ひ来る 台風で庭木負けずに緑の庭 太公望けふはうれしや鱗雲</p>	<p>異常気象地震台風大雨と 遠藤君そろそろ大開ねらったら スイミングがんばり五年この日あり 表彰台やっと人魚になりました 九ちゃんの歌選ばれしうれしさよ 大雨も心配のない佐鳴台 相撲取り第五を聴いて戦へり 同窓会夢が叶ふか五七五 政令市これでよいのか大合併 税金を泡(あぶく)銭(ぜに)だと誤魔化すは 越中にいかさま議員多々ありき</p>
--	--

2016年10月

<p>棚田米味覚をほめて瘦せられず 「花粉緩和米」生(な)り先明し 酔芙蓉道行く人の足を止め いで湯にて満月眺む夢心地 黒い雲一面被い人急ぐ 空青し季節が運ぶ衣更え 肌寒の金木犀が香る朝 眼差しはつなく手探すバトンパス 子らの汗しっとり重きたすきかな 五十本洗って干して軒すだれ 難きもの解すぬくもり冬近し 十月をかみしめ生きる湖畔かな ケベックは深紅の彩冬近し コスモスも空中散歩で楽しめる パン求め雲海の手横手山 飛行雲どこに向かふか秋の空 秋暑し遊歩道の草萌ゆる</p>	<p>竿先に潮の香伝ふ小鯊釣 電子辞書老いを刺激し智恵を詰む いつか見た絵がここにあり高額で 売れ残る鱈はウエスト細めだな ちぎり絵を見て蘇る昭和かな 去るもババ残るババ選挙戦 店仕舞ぽつぽつ増えて一葉落つ 駆け抜けてホールインワン竹の春 蟻螂の押し潰されて秋の風 後手後手と先手打てない東京都 福祉税足らぬと言って現物税 当地でも疑惑ありなし政活費 ポケモンGOひょうたん池も一段落 盲目のスイマー働哭吾も泣き オートファジーあなたのおかげで元気です 骨密度百オーバーで若返る 家族から見放されて行く手なし</p>
--	--

2016年11月

<p>大観の富士の青さや秋の旅 吊橋に色なき風の声聞く 伊豆の旅駿河の海に鱗雲</p>	<p>桜葉の舞い散る中を句会へと 夏ミカン色づきはじめ冬支度 菜園の稔りでマート遠くなり</p>
---	--

気ままとは時にさびしき秋の今日
フユザクラ紅葉と白の組み合わせ
菊香り満天の月秋深し
九州場所終わればもはや年の暮れ
氷雨降り旅の終りも近づきて
木の葉散る学校帰りのランドセル
鈴虫も子孫残して今静か
緑陰に冬近しとつわ踏の花
シクラメン庭の風景西洋化
紅葉の木曾路友と語り歩く
炬燵出せば犬一番に潜り込む
秋涼の富士雲纏ひ天を突く

安保法眉間の皺が深くなり
高齢の作品語る心意気
大統領ブリッジポーカー切り札に
太陽も軌道を変えて散歩する
夢抱く女性リーダー道険し
冗談を罷り通らす委員会
トランプで慌てふためきエース切る
出るか出るかスーパームーンで気をもんで
「君の名は」話題の映画はスマホ系
石ころがハイタッチしてホールインワン
エースなら四枚揃わば統べて賭け

2016年12月

ひつち田の稲穂颯りて風去りぬ
柊のほのかに匂ふ鄙の道
冬至湯の柚子にほっこり幸満ちて
紅白や名前も知らぬ人の増え
日だまりに群がり咲く花こぼれ種
柿すだれ晩秋の日を皆集め
老老で障子張り終え部屋温む
新そばの香り楽しみ初秋膳
保存水今年も無事を取り替えて
晩秋の歩道を歩く公孫樹
柚餅子食べ冬に向かいて待つ正月
紙芝居紅葉公園百円で
井伊谷のさだめ運命に咲いた一輪の花
年の瀬に友の訃報を悲しくて
球根を植えて春待つ楽しさよ
加湿器の湯気ひそかにて夜深し
伊吹より佐鳴湖にくる空っ風

高速道車窓に稲穂次々と
紅葉や古代神話の謎秘める
無花果を十ほど残して冬支度
柿ひとつ残して人も冬支度
蒲団干す小春日にウラギンの舞ふ
入浴剤さらさらさらと冬来る
混浴の相手は草津のお猿さん
身の丈を知って感謝の湯ぶねかな
島民の「諦めまいぞ」に拍手する
へそくりだ顔見合わせる煤払い
リハビリに生きる未練か苦痛耐え
シンゾーの渡る世界は鬼ばかり
温暖化ガス排出に待たなし
米口中だめなら賭場で稼ごうぞ
冗談で政治ができるという人も
認知症地域で面倒見ろと言い
パールなら次はラッカセイとなるかいな